

学校だより第7号 平成29年10月3日 学校教育目標：自ら学び、心豊かでたくましい児童の育成



きざき



— 児童が目を輝かせて、
明日の授業を楽しみにする学校 —

TEL048-831-2281

URL <http://kizaki-e.saitama-city.ed.jp/>

E-Mail kizaki-e@saitama-city.ed.jp



さいたま市立木崎小学校

児童数 849名

運動会が盛り上がるのは…

校長 豊島 登

今年の運動会は、絶好の天気にも恵まれ、多くのご来賓、保護者、地域の皆様に応援をいただき、盛大に開催することができました。また、練習から本番まで、大きな怪我なく安全に実施できたことにも安堵しています。子どもたちが安心して活動できるようにと、夏休みの終わりに、校庭の草取りや整地作業、側溝掃除などにたくさんのご協力をいただいたおかげと感謝しております。

さて、運動会が盛り上がるのは、単に大きなイベントというだけではないと思っています。リレーや徒競走、綱引き・玉入れなどの団体競技は、人間が本来持っている「競争」の欲求を刺激するものです。これは、自分や自分たちの方が優れていることを認めさせるために、「たたかい」の形式をとります。しかし、このたたかいにはルールがあり、フェアプレイで行われるものです。互いの力が拮抗していてどちらが勝つか分からないという未確定性も大切な条件です。結果として勝つことで競争の楽しさは満たされますが、たとえ敗れたとしても、勝つために重ねてきた努力こそ有意義なものとなります。それによってより高いレベルで運動を楽しめるようになり、次の勝者となる期待を高めてくれます。

一方、ダンス・表現運動は、「変身」への願望をもとに、一時的に現実の自分ではない自分になることが楽しい運動です。競争に勝つことではなく、そのものらしく見せるために、表現したいものの世界に入り込み、どれだけ創意工夫できるかが学習の深まりとなります。今年は、すべての学年でこのことを意識してチャレンジした運動会でした。

恥ずかしさや遠慮する気持ちを振り払うため、先生や友達の真似をすところから始まりました。ぎこちなかった動きが、踊り込むうちにだんだんとその世界に入っていきました。よい動きを全体に広めたり、グループで話し合ったりするうちに、子どもたちの表情も“真剣モード”に変化していきました。当日は、そのものになりきって陶醉している状態と、演じている自分を意識して覚醒する状態とを繰り返しながら表現しているように感じられました。1年生から6年生まで、どの学年もそれぞれの発達段階に合わせて力を発揮できたことが伝わってきて、私はとても感動しました。

運動会などの学校行事は、子どもが成長した姿を示す大きな舞台です。教職員は、子どもたちの力を伸ばしたいという強い思いをもって取り組んできました。その思いをしっかりと受け止めて、子どもたちは真剣にがんばりました。その姿を見て、保護者や地域の方々と思いを共有できること、これが運動会の盛り上がる所以であると感じました。